

2017年6月29日

富士ゼロックスの高度な複写技術を駆使し、 津和野町所蔵「津和野百景図」を複製、文化伝承に貢献

富士ゼロックス西日本社長から津和野町長に贈呈

富士ゼロックス西日本株式会社（本社：大阪市、社長：古川 利正）は、伝統文化継承に貢献する活動の一環として、島根県津和野町「津和野町郷土館」が所蔵する「津和野百景図」^{注1}の複製を製作、7月4日、津和野町役場津和野庁舎で行われる贈呈式で当社社長から同町長下森博之氏に贈呈いたします。

古文書などの伝統文書の原本は、劣化のおそれがあるため、展示期間も限られるほか、不特定多数の閲覧者が手で触れることができないことが一般的ですが、複製品であれば、所蔵者は劣化の心配なく展示でき、また、直接手にとり、感触も確かめることができるため、文化伝承に貢献することができます。

今回手掛けた「津和野百景図」は、一枚の紙を折ったり切ったりして作られている台紙に、絹地に彩色した絹本着色の絵図と和紙に書かれた解説文が貼り付けられており、それぞれ異なる素材が使用されています。そのため、製作に使用する紙または布に応じた、高度な印刷技術と色調整技術が要求されます。製作にあたっては、電子化した画像情報を印刷に適した形式に色変換し、原本に忠実に再現するため印刷の試行錯誤を行い、より原本に忠実な、質の高い複製品の完成を目指しました。今回は全5巻のうち1巻を贈呈、今年度中に全巻を完成する予定であり、津和野町日本遺産センターで7月11日より順次公開されることになっています。

富士ゼロックスは、社会貢献の一環として伝統文書の複製を通じた文化伝承活動を2008年から実施。現在は、研究・開発の主要拠点である富士ゼロックスR&Dスクエア（横浜市西区）および京都を拠点としており、これまで神社仏閣、市町村、大学、企業などに250点以上の複製品を贈呈しています。

富士ゼロックス西日本は、関西中四国地域の販売統轄会社として2012年に発足しました。京都から始まった古文書複製による文化伝承活動を、より多くの地域に広げたいとの思いから、2017年、文化推進室を新設いたしました。今後も富士ゼロックス 社会貢献グループとの協業のもと、高度な複写技術を生かした文化伝承のための社会貢献活動を実施いたします。また、津和野町日本遺産センターにはすでにスマートフォンを使った館内音声ガイドを提供しており、今後さらに、地方創生や地域活性化の動きと連動し、文化伝承にかかわるソリューションも検討してまいります。

注1：津和野藩最後の藩主亀井茲監（かめいこれみ）の業績をまとめた「以曾志乃屋文庫」（いそしのやぶんこ）とともに亀井家に納められた文書の一つ。藩主の側に仕えた栗本里治（くりもとさと）はるが藩内をめぐり、名所や風俗、食文化などをスケッチして約4年の歳月をかけて百枚の絵を描き、詳細な解説を加えてまとめたもの。栗本里治は弘化2（1845）年生。津和野藩政時代殿様の側のお仕え役で茶室の管理などもする「御数寄屋番」という役職についており、「津和野百景図」はその時の記憶や外出時に描いたスケッチがモチーフとなったといわれている。

・Xerox、Xerox ロゴ、および Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。



複製した「津和野百景図」